

1. 評価結果概要表

作成日 2008年5月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0370400178		
法人名	社会福祉法人 全人会		
事業所名	グループホーム水沢コスモス		
所在地	〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字十日市85 (電話) 0197-51-2151		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年5月2日

【情報提供票より】(平成20年3月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	23 人	常勤	16 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,340~20,790 円	その他の経費(月額)	24,490円(水光熱、日用品)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(3月 4 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	奥州病院、木村医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

奥州市の水沢区中心部から車で10分程度の場所にあり、住宅と田園が混在し近くに川も流れるのどかな環境にある。敷地内には同じ法人が運営するもうひとつのグループホームとデイサービスがあり、様々な面で協力体制がとられている。利用者と家族が医療面で不安を感じることがないように医療との連携を明確にし、事業所としての対応を行っている。また利用者の行動制限をしないことは徹底しており、職員の関わり方もさりげなく、利用者一人一人の個性がよくあらわれている。家族とのコミュニケーションは丁寧で、家族と事業所の結びつきは深い。利用者の「その人らしさ」を見つめ続ける姿勢が感じられる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、現行の介護報酬体系の中での重度化対応の難しさや、運営推進会議の開催方法などが話題にあがった。現在は、重度化対応の指針を整備し、家族へも説明した上で同意を得ている。また運営推進会議は、事業所が実施する大きなイベントに併せて開催し、同会議には利用者全員と家族の多くが参加する独特のスタイルで実施している。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で評価項目に沿って自己点検を行い、管理者が自己評価結果として集約しており、個々の職員が事業所の重点事項等をどれだけ実践できているか、振り返る機会となっている。今回の自己評価では、プライバシー保護や健康面の配慮が日々の実践で定着してきたことを成果としている。管理者は、職員が自己評価を通して、何か一つでも課題を捉え、日々の気づきと工夫につなげることを期待している。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>雑祭り及び全人会祭り、月見会、クリスマス会という4大パーティー開催の機会にあわせて運営推進会議を行っており、参加者は利用者、家族、職員を中心として非常に多い。内容は事業所からの報告事項が主で、参加者からの意見が少ないことを課題と感じている。「パーティー」がもつインフォーマルな空気を活用しながら、会場のあちこちで話し合いができるような方法などが考えられる。今後、テーマに合わせて地域の人にも多様に声をかけながら、楽しく創造的な場面作りが期待される。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>料金に関する意見(月々の実費負担等)は時々あるものの、それ以外の意見は少なく、事業所としては家族の要望や不安をもっと知りたいと感じている。日常的なやりとりの中で家族の姿勢は様々とのことであるが、行事における参加状況等から、家族の気持ちは利用者や事業所に向いていると考えられる。現在の関係性を大切にしながら、より率直な意見を得るための工夫(聞き方、聞く人、場面等)が期待される。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所として町内会や地元振興会に参画しているほか、利用者も地域の理美容院や魚屋など商店街と馴染みになっている。また、地域の小学校と総合学習の枠組みの中で交流があり、子どもやその親に「グループホームにいる人たちは特別な人たちではない」という理解と、高齢者に対する関心を深める取り組みとなっている。地域にとっても意義深く、地域機関や住民と協働していく取り組みの一つとして、今後も継続してもらいたい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民のために最善の全人的保健、全人的医療、全人的福祉、全人的介護サービスを提供します」としており、事業所としては特に医療面の配慮、連携が重視されている。地域との関わりという点では「地域の人からかわいがってもらおう」ことが大切と考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	医療面の配慮は、日々の職員の取り組みにも十分浸透している。理念としての「全人的ケア」を、地域との関わりの中で伝えていこうとする意識も強く、言葉としての理解に加えて、交流場面を通して実感できる取り組みもしている。「地域の人からかわいがってもらおう」こととあわせて、理念も時間をかけて地域と共有していこうとする姿勢がうかがえる。	○	毎年小学5年生と総合学習において交流する機会があり、そのなかで子どもの高齢者に対する印象も、否定的なイメージから活動的で親しみやすいというイメージに変わってきている。また、子供の親も関心を持つようになることから、地域の多様な世代に理念を伝える取り組みとなっている。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、地元振興会に参加しているほか、利用者が通う魚屋や理美容院など商店街とも馴染みが深い。すぐ近くの温泉施設とも親交があり、交番の警察官も協力的である。また近隣の知り合いが利用者を訪ねてくることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価項目に沿って、これまでの取り組みの振り返りを行っている。事業所として重視する健康面への配慮やプライバシー保護などについては、日常的な取り組みの中で定着してきたという認識を持っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、4大パーティー（ひな祭り、全人会祭り、月見会、クリスマス会）に併せて開催しているが、その会議には多くの利用者や家族が参加している。事業所側から連絡事項を多くの人に伝えることができる良い機会となっているが、その反面、参加者側からの率直な意見は得られていないという思いもある。	○	パーティーに併せての実施は、来て貰いやすさ、多くの参加者による共有性という点で有効性は高い。率直な意見を得たいという点では、話し合いがしやすい小グループに分かれてもらうことや、テーマ設定をするなど工夫も考えられる。また地域との関わりを深める点から、テーマに沿って地域の様々な人に声をかけて参加をお願いすることも期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは連絡しあい、利用者の入所前の状況を教えてもらうなど、日常的にやりとりがある。また市職員による実地指導も受けている。行政とは事業所の状況を伝えながら、より理解を深めたいとしている。	○	行政の意向を把握し、また事業所の状況を理解してもらう点においても、市担当者や地域包括支援センターとは今後も連絡を密にしながら、連携を図ってもらいたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の体調面や病院受診の了解、往診時の状況などは随時連絡している。4大パーティーでは家族も集まり、事業所の状況を伝えるほか、外出や行事の様子などは広報に載せて送っている。また何人かの家族には、電子メールで利用者の状況を細かく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設けているほか、パーティーなど家族が集まる場面では意見をうかがうようにしている。苦情や要望といった意見は少ないが、日常的に家族が訪れる中で、職員にささやくように伝えてくれることはある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ敷地内のもう一つのグループホームやデイサービスとは、行事を合同開催したり日常的な行き来がある。またその職員は夜勤を兼務しているため、利用者とも馴染みの関係になっており職員異動があっても利用者に影響は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、グループホーム全国大会に参加して、演題発表をしている。発表する職員は持ち回りで、経験年数等によらず、若い職員も参加している。テーマを見つけて1年間取り組むことで、職員の総合的な育成につなげている。また職員には型にはまることなく、自由に対応してもらうことを重視している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広い視野での情報交換を重視しており、全国のグループホーム協会に参加をしている。また同じ市内のグループホームを見学することもある。理念が共感できるグループホームと、今後も交流を広げていきたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に自宅を訪問し、本人や家族から話をきいている。その際には自宅での様子をビデオにとり、訪問していない職員や、すでに入居している利用者が一緒に見るようにしている。初期の利用者理解を深めると同時に、受け入れる利用者側の馴染みやすきにも配慮した取り組みとなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の思いを受け止めながらも、利用者に従うということではなく、利用者も職員に感謝しながら、職員を諫めることもある。お互いに感じたことは素直に表せるような関わり方を重視している。また利用者同士の関係性においても、仲の良さだけではなく、ちょっとした揉め事なども大事にしている。	○	訪問日当日も、利用者に対してそばにいた利用者が注意するといった光景が見受けられたが、その場面に陰しさはなく、職員も様子をみながら、やや間をおいて二人の間に入っていた。利用者が抑圧感なく感情表現できる空気作りは、今後も大切にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人から話を聞くほか、家族から本人の好きなもの等について入居時調査票に記入してもらっている。その後、日々の関わりにおいて職員が気がついたことなども把握しており、家族の理解とは異なっていることもある。そのような違いがあることを意識しながら、本人や家族との関わりに活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス提供の根拠となるニーズを本人、家族、事業所それぞれの立場で明確にし、ケア目標とケア内容を「いつ」「どこで」「だれが」という状況と併せて計画書に示すようになっている。またサービス提供に対しての事前評価、事後評価も計画書に記載するようになっており、サービス提供の意味と経過が本人や家族にもわかりやすい様式となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人や家族の要望をもとに計画を見直すようにしているが、計画に対する明確な意見が得られることは少ない。健康面の経過を基本的な材料としながら、日々の経過記録に記録されている具体的な行動と言葉（話した内容をそのまま記録）をもとに計画を見直している。見直した計画は家族に確認してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用申込み時は家族がパニック状況にあることも少なくないため、まずは落ち着いてもらえるよう丁寧に相談対応している。入居してからも、柔軟な対応をしてくれていると、家族から好評が得られている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者や家族の意向に沿って、それぞれ異なっている。受診の際には利用者の状態を細かく記載した情報提供書を用意して、適切な診察をしてもらえるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携体制上の重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、その内容を説明した上で家族から同意を得ている。看取りに関しては本人およびキーパーソンの意向を尊重するとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対外的な面での利用者のプライバシー保護は強く意識されている。また利用者の自尊心に関する配慮も細やかで、「どう呼ばれたいか」といったことなど、誇りとすることや傷つくことに関して一人ひとりの違いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを制限することはせずに、必要となる対応を時間をかけて検討している。また歌が好きな利用者がいて、NHKのど自慢大会を観に行ったこともある。利用者の願いに視点を当て続ける姿勢が感じられる。「その人らしさを求めて」というテーマでグループホーム全国大会において発表をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	若い職員も多く、「ゴーヤチャンプル」や「豚しゃぶサラダ」など高齢者に馴染みの薄い料理を作ることもあるが、利用者には好評である。またお茶に関してはおいしく飲んでもらうため、比較的高価なものを使うようにしており、利用者からも気に入ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は全員が入浴に積極的であり、毎日入浴している。身体動作が困難な利用者は、隣のデイサービスの機械浴を利用しており、毎日の入浴を実現すると共に、デイサービスと行き来をするよい機会にもなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、隣のグループホームとの新聞まわしや、食事の準備・後片付けを役割としている利用者がある。また利用者にとって、何が楽しみや気晴らしになるのかという点は、試行錯誤を繰り返しながら、日々の職員の気づきを蓄積することで把握するようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日には近隣の花が咲いている場所（さくら、つつじ）に散歩にでたり、地域の見学スポットや行事（江刺駅や火防祭など）を観に行ったりしている。隣接のグループホームやデイサービスと合同で出かけることもあり、外出の機会が多い。野球好きの利用者とプロ野球を見に仙台まで行ったこともある。	○	寒い時期の外出は利用者も意欲的ではなく、外に出る回数も減っている。職員も残念に感じており、今後工夫が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずに、鳴り物をつけて出入りを把握している。一人で外に出る利用者もあるが、止めることはせずに職員がついていくようにしている。利用者が遠くまで行こうとする場合は、もう一人の職員が帰りのために車で駆けつけるようにしており、利用者が歩くのを3時間程度見守ったこともある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回避難訓練を実施しており、日中の想定で5分程度で避難できる体制にある。夜間においては近隣の協力も得られればと感じているが、具体的な話し合いはまだしていない。	○	近所の住民とは、何かあったら協力してもらえる関係にある。運営推進会議等に招いて、災害時の協力体制に関する検討を進めることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に相談してアドバイスをうけ、塩分を摂り過ぎることのないよう味噌汁をスープに変えたり、便秘に配慮して麦ごはんを出したりしている。また病院受診時にアルブミン値の測定を依頼し、継続的に栄養状態を把握するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の上部には広い天窓があり、室内を明るくすると同時に、常に空がみえる空間となっていて、天候や時間の移り変わりを感じ取りやすい。高い天井には天井扇が取り付けられており、おしゃれな雰囲気を出している。共用空間内に一人になれる場所も複数あり、テレビが見れるソファは居心地の良い雰囲気にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとってお気に入りや過ごしやすい部屋となるよう、家族にも協力を依頼しながら「部屋作り」を重視している。		